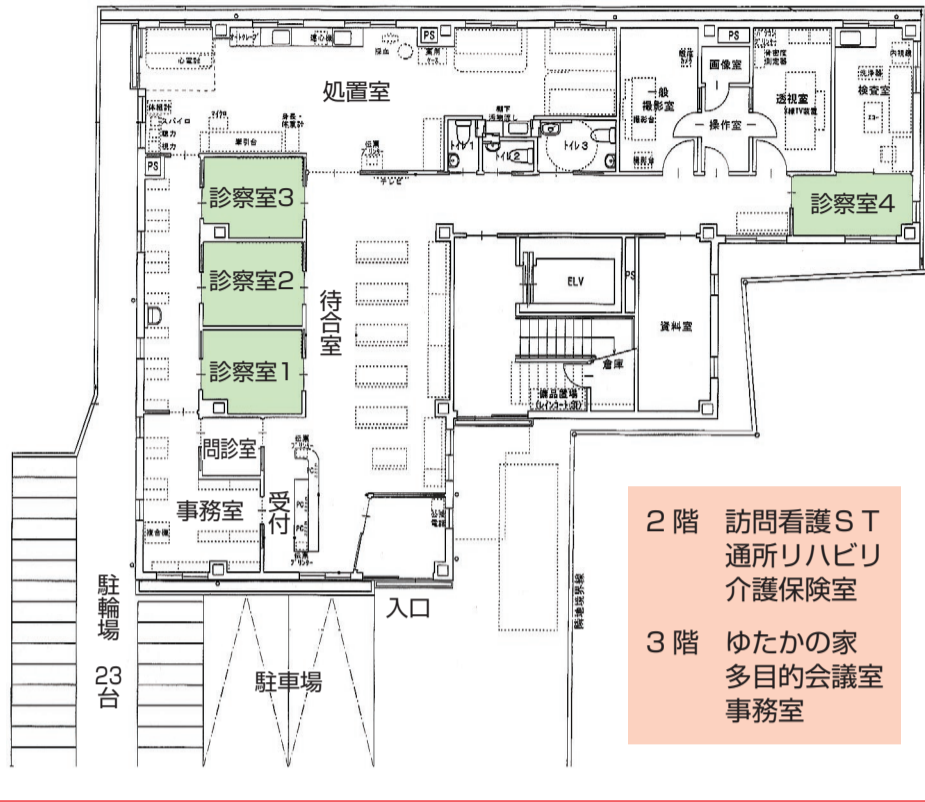


### ゆたか診療所の1階はこうなります



るので、苦渋の選択で病床は大田病院に集中しました。1日4便の大田病院への巡回バスで多少の便は回りまわりました。その代わりに通所リハビリや現在約80人の往診、うち40人は24時間応じられる体制をとっています。

外来は、新築されると4診察室になるのが楽しみです。大田病院から研修医が地域研修に来たときには、外来ボックスがなくて困る時間帯がありますし、看護師や栄養士の療養指導や、ケアマネジャーの面談や、込み入った問診もそこで静かにできます。

**堀田** 若い人たちが中堅の人たちが、「看護はおもしろいなあ」と実感できることを大切にしています。看護の専門的なことでは、みんな患者さんに寄り添い、しっかりと力を付けていますのでおまかせください。

地域の人が、この地で安心して暮らせるように、医療機関・介護・福祉の関係者と共同して、診療所が一緒になって動けるような運動体にもなっていきたいと思っています。

やはり、地域に支えられているということをもっと職員が実感して、私たちが持っている専門性を地域に返していくことが大事です。

住み慣れた場所が最期を迎えたいと思える地域にしていきたいです。

**秋田** いままでそうですが、一層地域に根を張った地域から期待される診療所としての機能を発揮してもらいたいです。いまの通所リハビリもそうですが、夜間の往診なども体制がとられているという点に対する利用者さんの期待というのは非常に高いものがあります。何よりも貧富の差がなくやるといふ点では、私たちが気になると思った患者さんのところには、できるだけ訪問したいと思っています。気になる患者さんは毎月あけていますが、追いかけてきません。病気のことで、生活のこと、経済的なこと、精神的なこと、いろいろ気になるところはあつて、電話でつながらなければ手紙、それもダメなら訪問ということもあります。

### 患者さんの思いを聞く



**堀田** 患者さんの自宅だと、すごく安心してくれます。それと訪問に行くことで、患者さんの生活環境が見えてきます。間取りや家の段差など、住んでいる地域、診療所までの距離などもわかります。やはり患者さんの思いを聞くという点では、本音が出しやすいのだと思います。



長細くなつていて、リハビリがやりづらいところもありました。品川区は、他の地域と比べて通所リハビリの数が圧倒的に少なく、退院後にリハビリを受けたいという方のニーズも高くなつてきているのに、受け入れ先がなかなかなくて、空きがでて、どんどん新規の申し込みがあつたりします。新診療所では2階に入り、定員も20人になります。面積から見れば、22〜23人定員にすることはできるのですが、歩くスペースや階段昇降を行うための機材も入れたいという希望もあり、20人定員にして地域のみならず、リハビリを受けたいという方を受け入れていく体制を整えていきます。

いままでもそうですが、地域から期待される診療所としての機能を発揮してもらいたいです。いまの通所リハビリもそうですが、夜間の往診なども体制がとられているという点に対する利用者さんの期待というのは非常に高いものがあります。何よりも貧富の差がなくやるといふ点では、私たちが気になると思った患者さんのところには、できるだけ訪問したいと思っています。気になる患者さんは毎月あけていますが、追いかけてきません。病気のことで、生活のこと、経済的なこと、精神的なこと、いろいろ気になるところはあつて、電話でつながらなければ手紙、それもダメなら訪問ということもあります。

### 通所リハビリ

**堀田** 患者さんの自宅だと、すごく安心してくれます。それと訪問に行くことで、患者さんの生活環境が見えてきます。間取りや家の段差など、住んでいる地域、診療所までの距離などもわかります。やはり患者さんの思いを聞くという点では、本音が出しやすいのだと思います。

**福田** 通所リハビリの定員は、現在15人です。もともと検査室だったところを改装して通所リハビリにしたので、

いま、セラピスト・理学療法士の常勤が1人いますが、定員が増えるにあつて作業療法士を採用したいと考えています。それぞれ1人ずついれば、利用者さんが必ず個別のリハビリを受けられるという体制にしておきたいです。

**古口** 今、ゆたかの家ではいろいろな教室(書道・絵手紙・俳句・麻雀・手芸・囲碁など)を楽しんで開いています。その作品を診療所の玄関に展示しています。これは今

にもリハビリにも対応できるのではないかと思います。

### ゆたかの家

**堀田** もうそれは強い味方です。ゆたかの家を立ち上げるときから知っていますが、組合員さんの姿勢がすごいです。徹底して地域に根ざしているんですね。それで、ゆたかの家は継続しているじゃないですか。継続するということはずごく大変なことです。なかなか参加できていませんが、一番身近にはゆたかの家が支えてくれているという実感を職員はみんな持っています。本当に感謝しています。

**福田** ゆたかの家のみなさんは、クリスマスときなどに、通所リハビリの利用者さんにストラップなどをプレゼントしてくれたり、散歩にいったりするとき歩行の付き添いをしています。

**古口** 今、ゆたかの家ではいろいろな教室(書道・絵手紙・俳句・麻雀・手芸・囲碁など)を楽しんで開いています。その作品を診療所の玄関に展示しています。これは今

にもリハビリにも対応できるのではないかと思います。

### 地域の反応は?

**谷岸** 募金・地域共同基金を集めることになって、生協組合員と職員が一緒になって地域へ出て行く中で、やはり反応はとても良くて、新しい診療所ができる、新しくなるということでもみなさん好意的に受け入れてくれています。

**秋田** 地域のみなさんが好意的であるというところは、地域にやはり城南保健生協の根がしっかりと降りていることではないかと思っています。

**谷岸** 民医連の診療所として、品川区にはゆたか診療所と三ツ木診療所の2カ所があり、連携をとりながら地域の患者さんを守るため動いています。ゆたか診療所を建て替えた後は、三ツ木診療所の建て替えというのも控えています。今後はやはり、民医連の医療を担っていくためには地元のみなさんの力が重要になってきますので、ゆたか診療所の建設を機に民医連をもちと知ってもらおう、ゆたか診療所を、三ツ木診療所をさらによく知ってもらうことが大切だと思っています。

### 座談会メンバー

- 秋田 穂雄 (ゆたか診療所建設委員長)
- 鈴木 雄二 (建設委員)
- 古口 昭代 (建設委員)
- 権守 光夫 (ゆたか診療所所長)
- 堀田 扶治子 (ゆたか診療所看護部長)
- 谷岸 祥行 (ゆたか診療所事務長)
- 福田 僚太郎 (ゆたか診療所通所リハビリ)



(写真撮影・唐澤英行)